

1. 科目名 (単位数)	看護学 (救急処置を含む) (4 単位)	3. 科目番号	EDHE3313
2. 授業担当教員	高橋 登志子		
4. 授業形態	ディスカッション・講義を中心に、グループワーク・発表・実技演習などで構成する。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	「解剖生理学・病原微生物学・医学概論・免疫学等の関係		
7. 講義概要	<p>本科目では、養護教諭を志す学生が、本科目を学ぶことの意味を考えることから取り組んでいく。教師が、点数ではなく「その児童・生徒」をみるように、看護は病気をみるのではなく生きている「その人」をみる。また、看護行為は専門性に基づいた意図的な営みであり、意図していなかった意味もある。本科目では、この考え方を基盤に、養護実践に不可欠な看護学的知識や技術を中心に学んでいく。</p> <p>養護教諭は、教諭自らの身を用いて、その児童・生徒が言葉とからだで表現しているサインを状況と共に意図的に読み取る。そして目の前にいる児童・生徒が、命の危険を伴うのか、休養を要するのか、医療を要するのかを判断しなければならない。その上で、児童・生徒が生を営んでいくための心身機能に支障を来たす危険性を最小限にするために、教諭の身を用いて必要な手当てをしなければならない。本科目では、このような判断や手当てに必要なフィジカルアセスメント、感染予防、移送、包帯法などの知識や技術と、児童・生徒によくみられる症状や状態に応じた基本的な対応について学んでいく。</p> <p>また人間は、外界から酸素や食物を取り入れ、エネルギーをつくり出し、活動し、休息し、不要物を外界へ排泄し、生きている。これらの生理的な働きが生活・人生の基盤となり、これを整えていくことが自己実現へとつながる。食事・活動・排泄等の生きるための行動に関して、生理的な働きを保つための援助としてのみではなく、よりよく生きるために、生活行動を自立し、自律的な望ましい生活習慣を確立していくための、健康教育に必要な基礎知識としても学習する。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 養護教諭を志す学生自らが、看護学を学ぶことの意味を見出し、記述することができるようになる。 2. フィジカルアセスメントに関する基礎的な知識と技術を学び、これに基づいた身体機能の評価方法を説明できるようになる。 3. 感染予防に関する基礎的な知識と技術を学び、「清潔」「不潔」の区別ができるようになる。 4. 食事・排泄・活動・睡眠の意義と自立、および自律的な生活習慣に向けた援助・支援に関する知識を学び、養護教諭の役割を見出して記述することができる。 5. 保健室の機能を活かす環境づくりに関する知識と技術を学び、実践することができるようになる。 6. 移動・移送・包帯法に関する知識と技術を学び、学生間で実践できるようになる。 7. 児童・生徒によくみられる症状・状態に応じた看護的対応に関して学び、代表的な症状・状態に対する対応について記述することができる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>【レポート課題1】「養護教諭として看護学を学ぶことの意味について自己の考えを述べよ」(800字程度) 【レポート課題2】「ヘルスアセスメントを必要とする点を中心に既習学習を含めた学びから自己の考えを述べよ」(1000字程度) ※ 提出期限については、授業中に提示する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 藤井寿美子・山口昭子・佐藤紀久榮・采女智津江編著『養護教諭のための看護学四訂版』大修館書店。 2. 『保健室で役立つフィジカルアセスメント』監修 山内豊明 東山書房 <p>【参考書】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 岡田加奈子・遠藤伸子・池添志乃編『養護教諭、看護師、保健師のための学校看護—学校環境と身体的支援を中心に—』東山書房。 2. 草川功監修・全養サ書籍編集委員会著『ここがポイント! 新刊 学校救急処置 基本・実例、子どものなぜに答える』農文協。 		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 養護教諭を志す学生自らが、看護学を学ぶことの意味を見出し、記述することができるか。 2. フィジカルアセスメントに関する基礎的な知識と技術を学び、これに基づいた身体機能の評価方法を説明できているか。 3. 感染予防に関する基礎的な知識と技術を学び、「清潔」「不潔」の区別ができるようになってきているか。 4. 保健室の機能を活かす環境づくりに関する知識と技術を学び実践することができるようになったか。 5. 食事、睡眠、運動の意義と自立、および自律的な生活習慣に向けた支援・援助に関する知識を学び、養護教諭の役割を見出すことができたか。 6. 移動・移送・包帯法に関する知識と技術を学び、学生間で実践できたか。 7. 児童・生徒にみられる症状・状態に応じた学校看護的対応に関して学び、代表的な症状・状態に対する対応を修得できたか。 <p>○評定の方法 (下記を総合して成績評価をする。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日常の授業への積極的参加態度 (20%) 2. 演習、グループ発表、授業への振り返り (20%) 3. 課題レポート (30%) 4. 小テスト、期末テスト (30%) <p>上記のほかに、本学の規定に定められている3/4以上の出席が単位の修得の条件であることをも配慮する。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>看護は病院で看護師によって行われるという狭義の看護ではなく、健康水準にある(健康な人をも対象とした)人々を対象に看護は行われているというように広義の看護であることを学習します。養護教諭は、学校現場において、教育的・医学的・看護学的知識・技能を有した専門職といわれています。子どもたち一人ひとりを尊重しながら、子どもたちと向き合い、総合的に対応できるアセスメント能力が求められます。みなさんの中で、看護というものがどのようなものであるかの理解を確認しつつ、双方向で授業を展開してい</p>		

	きましよう。 積極的参加度、受講態度、レポートの形で評価します。	
13. オフィスアワー	授業内(初回授業等)で周知する。	
14. 授業展開及び授業内容		
講義日程	授業内容	学習課題
第1回	○オリエンテーション ・カリキュラムにおける本科目の位置づけ ・本科目の学習目標・学習内容の概要・学習方法 【看護学総論】 ○非看護系大学における看護学について ○看護学総論 ○看護職の倫理	事前学習 教科書「はじめに」を読んだ上で、既習の知識と生活体験から、養護教諭を志す自分が看護学を学ぶことの意味を考え、発表できるようにしておく。
		事後学習 教科書 pp. 2-9 を読み、授業内容の理解を深める。
第2回	○基礎看護論 ・看護の基礎 ○看護の機能と養護教諭 ○望ましい養護教諭とは(専門職としての資質能力)	事前学習 教科書pp. 10-12 を読み、わかったこと、わからなかったことを発表できるようにしておく。
		事後学習 授業内容を踏まえて、養護教諭を志す自分が看護学を学ぶことの意味について考えを深めておく。
第3回	○看護行為の基本 ・コミュニケーション ・観察の目的 ・記録の重要性	事前学習 学校看護において、なぜ連携や協働が必要であるのか、自分なりの考えを発表できるようにしておく。教科書pp. 13-20
		事後学習 養護教諭を志す自分が看護学を学ぶことの意味について、自己の考えをまとめる。
第4回	○看護の過程 ・養護教諭の養護活動の過程 ・疾病の経過に伴う看護 ・児童生徒対象の病気の経過に対応して行われる援助	事前学習 教科書pp. 21-27 の養護教諭の行う看護的対応の流れを理解しておく。
		事後学習 教科書等をみながら、特に自主的に取り組みたい学習課題について考えておく。
第5回	○小児看護 ・小児看護の基礎知識(小児の健康と看護) ・小児各期の健康障害(幼児期・学童期)の理解 ・こころのケア(心的外傷ストレス、虐待、いじめ)	事前学習 教科書pp. pp. 30-443を読み、小児期の健康障害を理解し看護を学び教育活動に関係が深いことをまとめておく。
		事後学習 小児看護が養護教諭活動に関係が深いことを理解し深める。
第6回	○学校における感染予防に関する基礎知識 ・感染予防の3原則 ・消毒と滅菌の種類および方法 ・学校における感染症発生時の対応)	事前学習 教科書 pp. 45.-50 を読み、「学校における感染予防・対策の考え方」を読み、わかったこと、わからなかったことを発表できるようにしておく。
		事後学習 感染症の予防や拡大防止において、学びと自己課題をまとめておく。
第7回	○思春期看護、母性看護 ・思春期の健康障害と看護・予防	事前学習 教科書pp. 51-78まで熟読し、思春期の健康にかかわる問題と解剖生理学的知識を確認しておく。
		事後学習 思春期の健康問題の看護と予防について学んだことについて自己課題をまとめておく。
第8回	○成人、老年看護 ○眼科疾患と看護	事前学習 教科書pp. 79-100で熟読し、経年的な健康教育を実施するために、成人や老年の疾病などを理解しておく。また、目の構造と機能等を理解し疾患においても理解しておくこと。
		事後学習 成人、老年の疾病の看護と予防について学んだことについて理解しまとめておく。また、目の疾患はインフォームドコンセントを図ることの重要性をまとめておく。
第9回	○耳鼻咽喉科疾患と看護 ○皮膚科疾患と看護 ○口腔歯科保健と看護	事前学習 教科書pp101-132まで熟読し、解剖生理学的知識を確認しておく。
		事後学習 それぞれの疾患は生活機能に欠かせない部分に疾患が発生する。専門用語や学童期によく見られる症状や疾患、必要な看護について自己課題をまとめておく。保健室の機能渡洋ご用湯に役割についてまとめておく。
第10回	○訴えや症状に対する理解と看護 ・それぞれの訴えに応じた対応	事前学習 教科書pp. 133-152まで熟読し、保健室の機能と養護教諭の役割についてまとめておく
		事後学習 児童生徒の生命や安全について、体験をふり返り、自己課題をまとめておく。
第11回	○障害のある児童生徒の理解と看護 ○健康診断 ○健康相談 ・健康相談プロセス	事前学習 教科書pp. 153-177まで目を通し、わかったこと、わからなかったところを発表できるようにしておく。
		事後学習 健康教育活動について、授業内容の理解を深めておく。また、その活動の中心となる自己の課題をまとめておく。
第12回	○健康教育 ・ヘルスプロモーション ・日本の健康づくりの取り組み ・学校における健康教育 ○学校安全と危機管理 ・学校における危機管理体制及び救急体制	事前学習 教科書pp178-192まで熟読し、系統的に健康づくりのための看護を理解し、学校保健と関係が深いことを学ぶ。
		事後学習 学校看護において、なぜ、連携や協働が必要であるか、自分なり考えを発表できるようにしておく。
第13回	【看護技術】 ○基礎看護 ・環境整備・安楽な体位・傷病者の移送 ・衣服の脱着・身体の清潔・排泄の援助	事前学習 教科書pp. 194-201 搬送法に関する技術のイメージトレーニングをしておく。また、児童を保健室に搬送していただくこと想定し、必要な心身の準備と環境を整えておく。

	・食生活の援助・電法・薬の知識と理解	事後学習	保健室の使用後を想定した実習室環境を整える。また、授業で学んだ体験をふり返り、自己課題をまとめておく。
第14回	○感染予防のテクニック ・無菌操作に関する基礎知識 ・無菌操作の技術の実際	事前学習	教科書pp. 202-205 原理原則を抽出し、発表できるようにしておく。
		事後学習	身近なものを用いて、無菌操作のイメージトレーニングをしておく。
第15回	○バイタルサインの測定法 ・体温、脈拍、呼吸、血圧 ・包帯法 ○救急処置 ・技術の習得・体位・保温・止血法 ・症状別救急処置（創傷・捻挫・骨折・熱中症・アナフィラキシーショック）	事前学習	教科書pp. 206-211 を読み、わかったこと、わからなかったことを発表できるようにしておく。
		事後学習	教科書 pp. 212-219 を参照しながら、脈拍触知可能な各部位を自分の身体で確認する。また、他者の脈拍と呼吸数を測定する体験をしておく。
第16回	【救急処置】 ○フィジカルアセスメントとは何か ・基本技術と理論	事前学習	教科書PP219～227教科書2 pp. 8-19 を読み、わかったこと、わからなかったことを発表できるようにしておく。
		事後学習	人間が生活を営む機能を支持する養護教諭の役割について考え、まとめておく。
第17回	○養護教諭にとってのフィジカルアセスメントの重要性 ・養護教諭が行うフィジカルアセスメント	事前学習	教科書2 pp22-32を読み、わかったこと、わからなかったことを発表できるようにしておく。
		事後学習	人間が生活を営む機能を支持する養護教諭の役割について考え、まとめる。
第18回	○フィジカルアセスメントに共通する基本技術 ・問診、視診、触診、聴診、打診 ・バイタルサイン（体温、脈拍、血圧、呼吸、意識障害）の測定方法と実際	事前学習	教科書2 pp. 34-67 に目を通し、呼吸・循環・体温調節に関する解剖生理学的知識を確認しておく。
		事後学習	授業内容を想起しながら、専門用語や基準値を覚える。
第19回	○フィジカルアセスメントの実際① ・頭、眼科、耳鼻咽喉科における症状や訴えに関する技術とその実際	事前学習	教科書2 pp74-101目を通し、頭部、眼、耳鼻咽喉の解剖生理学的知識を確認しておく。
		事後学習	授業内容を想起しながら、専門用語や基本となる技術を学び深める。
第20回	○フィジカルアセスメントの実際② ・口腔、首、顔面、胸における症状や訴えに関する技術とその実際	事前学習	教科書2 pp102-141を参照しながら、口腔、首、顔面、胸部の解剖生理学的知識を確認しておく。
		事後学習	授業内容を想起しながら、専門用語や基本となる技術を学び深める。
第21回	○フィジカルアセスメントの実際③ ・腹部、四肢における症状や訴えに関する技術とその実際	事前学習	教科書2 pp. 142-164を読み、腹部の循環器系・四肢の骨格系の解剖生理学的知識を確認しておく。
		事後学習	授業内容を想起しながら、専門用語や基本となる技術を学び深める。
第22回	○フィジカルアセスメントの実際④ ・発熱、気持ち悪い、めまい、立ちくらみ、だるい、疲れの症状や訴えに関する技術とその実際	事前学習	教科書2 pp. 165-190を読み、わかったこと、わからなかったことを発表できるようにしておく。
		事後学習	グループワークを通しての自己課題にとりくむ。
第23回	○症状フィジカルアセスメントの実際⑤ ・不眠、けいれん、ひきつけ、熱中症の症状や訴えに関する技術とその実際	事前学習	教科書2 pp. 191-211を読み、わかったこと、わからなかったことを発表できるようにしておく。
		事後学習	グループワークを通しての自己課題にとりくむ。
第24回	○症状や状態に応じたアセスメントと応急処置・支援 ・顔の部位	事前学習	教科書2 pp. 214-246を読み、顔の部位の解剖生理学的知識を確認しておく。
		事後学習	授業内容を想起しながら、専門用語や基本となる顔のアセスメントの技術を学び深める。
第25回	○症状や状態に応じたアセスメントと応急処置・支援 ・胸部の部位	事前学習	教科書2 pp. 247-254の該当部分を読み、胸部の部位の解剖生理学的知識を確認しておく。
		事後学習	授業内容を想起しながら、専門用語や基本となる胸部のアセスメントの技術を学び深める。
第26回	症状や状態に応じたアセスメントと応急処置・支援 ・腹部の部位	事前学習	教科書2 pp255-268を読み、腹部の解剖生理学的知識を確認しておく。
		事後学習	授業内容を想起しながら、専門用語や基本となる腹部のアセスメントの技術を学び深める。
第27回	症状や状態に応じたアセスメントと応急処置・支援 ・全身	事前学習	教科書2 pp269-300を読み、わかったこと、わからなかったことを発表できるようにしておく。
		事後学習	授業内容を想起しながら、専門用語や基本となるアセスメントの技術を学び深める。
第28回	○止血法・包帯法に関する基礎的知識 ○心肺蘇生法に関する基礎的知識	事前学習	教科書pp. 211-227及び配付資料を読み、わかったこと、わからなかったことを発表できるようにしておく。
		事後学習	教科書や資料を参照しながら、止血点を身体で確認し、技術を覚える。
第29回	○本科目全体を通しての学びの想起（内科）	事前学習	養護教諭を志す自分が今まで学んだ看護学の意味について考えをまとめておく。
		事後学習	本科目全体を通しての学びを想起し、現時点の自分が、看護臨床実習で学びたいこと、学ぶ必要性を感じることをまとめておく。
第30回	○本科目全体を通しての学びの想起（外科）	事前学習	養護教諭を志す自分が今まで学んだ看護学の意味について考えをまとめておく。

		事後学習	本科目全体を通しての学びを想起し、現時点の自分が、看護臨床実習で学びたいこと、学ぶ必要性を感じることをまとめておく。
期末試験。			